

テーマ 「季節」を感じる

対象 3歳児

日時 2025年2月17日から20日

3月のひな祭りに向けてひな人形を作りました。工程が多かったので、2度に分けて作品を作りました。本物のひな人形が保育園の玄関に飾ってあるので、それを見て、イメージを膨らませてから制作に取り掛かりました。

### 子どもの活動

- ・子ども達は、小グループに分かれて、まず、和柄の折り紙の中から、男雛と女雛の服にしたい柄の折り紙を選びました。男雛と女雛の服を先生と一緒に折りました。
- ・直径7.5cmの丸に切った薄橙の画用紙に男雛と女雛の髪型黒画用紙を糊で貼りました。目と口、鼻などを描き、服に両面テープで張り付けました。ここから、2日目の工程が始まります。
- ・女雛に扇を手のあたりに糊で付けました。そして髪飾りを糊で貼りました。男雛に烏帽子を髪に糊で貼り、笏を手のあたりに糊で貼りました。
- ・紙皿を二つに折り、好きな色の無地和紙を張り付けました。その上に、男雛と女雛を張りました。お雛様の周りや裏側に、赤や桃色の梅を画用紙で抜いたものを、糊で貼って飾り付けました。

### 子どもの様子

- ・今回、折り紙、和紙、画用紙の3種類の紙を使いましたが、手触り、厚み、硬さ、糊のつきやすさなど素材の違いを感じることができた子どもがいました。紙をずーと触り、違いを感じている様子がありました。
- ・男雛・女雛の持ち物や髪飾りを知っている子どもがたくさんいて、「帽子みたいなのをつけないの?」とか、「扇子をもっているの」という声が聞こえた。中

には、扇を知らなかったなので、向きが横向きになっている雛もあったが、大体の子どもは、開いた方を上に貼ることができていた。

### 活動の振り返り

- ・男だから青、女だから赤という色と性別と色のこだわりがなく、男雛、女雛両方とも同じ色の折り紙を使う子どもがいました。
- ・顔の認識ができていて、目、口、ほっぺたを描くことができていました。
- ・工程は多かったが、難易度は、この時期の3歳児にちょうど良く、子ども達が興味の続く時間で工作を終えることができました。
- ・3種類の紙を使いましたが、その違いを子どもが自ら気づいてくれたことはとても良かったです。

